

地域包括支援センター運営協議会の会議結果報告

1. 会 議 名	令和元年度第2回松阪市地域包括支援センター運営協議会
2. 開 催 日 時	令和元年 10 月 31 日(木) 午後1時 30 分～午後3時
3. 開 催 場 所	松阪市健康センターはるる
4. 出 席 者 氏 名	出席者 [委員]小林会長、津田副会長、平岡委員、岩瀬委員、杉山委員、高橋委員、日野委員、田中委員、植嶋委員、山口委員、小山委員 計 11 名、(欠席委員)福本委員、川上委員 [地域包括支援センター]第一地域包括支援センター:2 名、第二地域包括支援センター:2 名、第三地域包括支援センター:2 名、第四地域包括支援センター:3 名、第五地域包括支援センター:2 名 [地域振興局]嬉野地域振興局地域住民課:中川課長、三雲地域振興局地域住民課:田口課長、飯南地域振興局地域住民課:達課長、飯高地域振興局地域住民課:松葉課長 [傍聴]なし [事務局]高齢者支援課:松田課長、藤牧担当監、西山担当監、前川主幹兼係長、大西主任、稲垣主任、林主任、潮田、丸尾 介護保険課:田中課長
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	なし
7. 担 当	松阪市健康福祉部高齢者支援課 TFL 0598-53-4099、FAX 0598-26-4035 e-mail kourei.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 2019 年地域包括支援センター自己点検について
2. 介護予防の取り組み紹介について
3. その他

議事録 別紙

令和元年度 第2回松阪市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日時 令和元年10月31日（木）

13:30～15:05

会場 松阪市健康センターはるる3階

出席者

[委員] 小林会長、津田副会長、平岡委員、岩瀬委員、杉山委員、高橋委員、日野委員、
田中委員、植嶋委員、山口委員、小山委員 計11名
(欠席委員) 福本委員、川上委員

[地域包括支援センター]

- ◎第一地域包括支援センター：2名
- ◎第二地域包括支援センター：2名
- ◎第三地域包括支援センター：2名
- ◎第四地域包括支援センター：3名
- ◎第五地域包括支援センター：2名

[地域振興局]

- ◎嬉野地域振興局地域住民課：中川課長
- ◎三雲地域振興局地域住民課：田口課長
- ◎飯南地域振興局地域住民課：達課長
- ◎飯高地域振興局地域住民課：松葉課長

[傍聴]

- ◎なし

[事務局]

- ◎高齢者支援課：松田課長、藤牧担当監、西山担当監、前川主幹兼係長、大西主任、
稲垣主任、林主任、潮田、丸尾
- ◎介護保険課：田中課長

事務局

ただいまから、令和元年度第2回松阪市地域包括支援センター運営協議会を開催させていただきます。早速、会長よりご挨拶をいただき、そのまま議事進行も引き続きお願いしたいと思います。

会長

どうも皆さまお忙しいところお集まりいただき、また委員の皆様には、いろんな立場でお支えいただき感謝しております。本当にありがとうございます。

では事項書に基づき、ご協議いただきたいと思いますので、活発な意見を頂戴したいと思います。まず、報告事項を事務局の方からお願いします。

事務局

報告事項を1点ご案内させていただきます。

今年度、「松阪市版のエンディングノート」を作成しています。高齢化が進む中

において、高齢者の終活、意思決定について、あらかじめ記しておくことにより、緊急時、あるいは亡くなられたときのご家族のご負担等を減らしたいということから、始めさせていただきました。

今年度は、地域包括支援センターにおいて、エンディングノートに関する講座をしています。これまでは、使用していた教材が、各包括センターでバラバラであったのを、今年度、社会福祉士さんに選んでいただいた教材に統一して、活用しています。

また、講座のアンケートで、市民の方々からエンディングノートのご意見を頂戴する中で、市民の方のご意見も反映させていきます。

このエンディングノート作成にあたり、終活情報登録事業検討委員会を立ち上げ、12名の委員構成で、第1回を8月1日に開催しました。委員の中からワーキンググループを構成し、9月4日と11月11日に実質の項目の検討を進めているところです。

包括支援センターの社会福祉士さんにも、エンディングノートの検討についてご協力をいただいています。

エンディングノートは、書いていただかないと意味がないので、いかに書きやすいデザインか、あるいは書いてどういう意味があるのか、手引書のような部分も含めた中で、いろいろ模索している段階です。パソコン系について、ID、パスワードをどうするかという問題等も浮上して、頭を悩ましながらやっています。

本来であれば、今年度中に発行したいと思っていましたが、こういう議論を煮詰めたいということもあり、検討を今年度中にして、来年度に何とか発行したいと進めています。

会長

はい、ありがとうございます。何か今のことでご質問とかはよろしいですか？

はい、では協議事項に移らせていただきます。

(1) 2019年度地域包括支援センター自己点検について、まず事務局の方からご説明をいただきたいと思います。

事務局

まず、事務局から自己点検表の説明をさせていただきます。

松阪市地域包括支援センター運営事業自己点検表ですが、昨年度までのとは違い、国の評価指標も入れて、元々の松阪市のオリジナルもミックスさせた形で、初めて点検をしていただきました。

地域包括支援センターは、運営方針にもうたわれていますように、地域包括ケアシステムの推進を図る中核機関で、地域住民の方々の心身の健康の保持と生活の安定のために必要な相談・支援をする機関となっています。ただし、高齢化、核家族化等いろんな問題が重なって、地域包括支援センターの業務の負担が、年々過大となっている中で、包括支援センターの機能を適切に発揮していただくための評価指標が必要ということが国の方からもいわれてきました。今回 2018 年度の事業について、国の指標と松阪市の元々の指標を全部で 95 項目を包括支援センターの職員全員で評価をしていただきました。

この評価に基づきまして、実施状況をしっかりと把握して、適切な人員配置と、業務の重点化と効率化を進めて行きたいと考えています。

○や△の評価をつけるのは難しく、心苦しい面があったと聞いていますので、委員の皆様からご意見をいただいて、今後必要なところは見直していきたいと考えています。

会長

ありがとうございます。非常にたくさんの項目をチェックしていただきました。各包括から、時間を限って恐縮ですが、約 3 分ほどで概略説明をいただいて、なるべく質疑応答等で話を煮詰め、今後の活動に活かせればと思います。それでは第一包括の方からご説明をお願いします

第一地域包括支援センター

職員体制としましては、3 職種 7 名プラス介護支援専門員、事務員のパート各 1 名、計 9 名体制で業務を行っています。

自己点検表最初のページは、すべての項目を適切に実施しており、追加のご説明はありません。

2 ページ目の項目 15、16 は、土日祝日や早朝、夜間の窓口は設置しておりません。ただし管理者の携帯番号を届けており、緊急の際にはご連絡をいただけることになっています。

18 の個人情報保護のマニュアルは、今回の自己点検表で初めて国から示された項目であるため、現在松阪市のマニュアルに準拠した、センター独自のマニュアルを作成中です。個人情報の管理は、松阪市から示された個人情報取り扱い方針と各職員の高い倫理観をベースに適切な管理を行っています。

3 ページ、項目 31 は、毎朝のミーティングでケースを共有し、その対応について、互いに相談し合える関係性がスタッフの中にあり、そのことが私たちセンターの強みになっていると思います。支援経過記録を丁寧に作成することで、電話をとったものが誰でも代わりに対応できるよう体制づくりも常に意識をしながら仕事をしています。

34、35 の地区診断は、今年度から担当者を明確にし、実施をしています。地区診断の結果に基づいて、来年度の事業計画を現在作成しており、地域の方に対しても説明をしています。数字を加えた説明をすることで、地域の方からご理解も受けやすくなっていると感じています。

4 ページの項目 46 は、×ですが、実際にはモニタリングを実施しております。

項目 49 も、11 年前から隔月で開催している地域ケアネットに加えて、すべての公民館地区で開催している地域ケア会議で、民生委員とケアマネジャーのネットワーク構築と地域課題の共有をサポートしています。昨年度地域ケアネットは延べ 432 名の方に参加していただきました。

51 から 55 の認知症地域支援は、保健師兼認知症地域支援推進員を中心に圏域内の 5 つすべての小学校でキッズサポーターの養成講座を開催しました。まちづくり協議会や近隣施設等との共催で開催することで、すべての学校が毎年の行事予定に組み込んでいただいています。圏域内すべての小学生が、この養成講座を

受けて大人になっていくことで、10 年後 20 年後の地域づくりにつながっていると感じております。来年度はぜひ徘徊模擬訓練に取り組みたいと考えています。

5 ページの 56 から 64 の項目は、社会福祉士が特に力を入れて、高齢者の尊厳と命を守るための啓発講座をしています。

福祉系の講座は、運動などと比べて参加者集めに非常に苦労しますが、すべての公民館で計画的に教室を実施することで、最近はかなりの人気講座に育ってきています。また、実際に起きてしまった消費者被害や虐待も市や関係機関と連携を取りながら、丁寧に対応をしています。

6 ページの項目 75、ケアマネからの相談事例の整理は、今年度から取り組んでいます。

7 ページ、86～95 も、1 年を通じて保健師、看護師や生活支援コーディネーターが中心となって、地域に関わりながら、介護予防サポーターの皆さんと一緒に介護予防のまちづくりに取り組みしています。

会長

はい、ありがとうございます。続きまして第二包括支援センターからお願いします。

第二地域包括支援センター

地域包括支援センターの進捗体制、1 ページ目、×が 1 つありますが、少し薄いところがあるということです。

2 ページ目、13 番が×ですが、全く計画されてないという訳ではありません。突発的な研修の連絡等もあり、大まかな計画は立てていますが、しっかりとした計画を今後しなければいけないということです。

21 番の、個人情報の持ち出しは、今年度から包括支援センターで統一した書式を使っていくことになり、情報の管理していくことになっています。

総合相談は、30 番が×ですが、個別のケースの対象や分類化することで、地域の分析へとつなげていけるように工夫をしております。

4 ページ目、地域ケア会議は、×がいくつかありますが、まったく行っていないのはありません。地域で上がって来た個別のケースや地域で、各団体様と地域ケア会議をしたり、各多職種と広がりにつなげるように、そういう方向性でしていますが、もう少し情報のバックというところが薄いと思います。

権利養護の部分は、社会福祉士を中心に頑張っており取り組んでいます。63 番 64 番は×ですが、松阪市の「ちゃちゃもの見守り情報」等を活用して、情報の共有に努めたり、地域への注意喚起はしていますが、個別や各地域に細かく細かく知らせるところは薄かったところがありました。

6 ページの包括的・継続的ケアマネジメント支援では、介護支援専門員との連携があります。毎月、事例検討会等をして、顔の見える関係を構築しているところです。しかし、事前に皆さんで話し合っ、その事例検討会を計画したのかといえ、少し薄かったことや、エリアから上がって来た情報を基に事例検討会を計画しているのかといえ、そこまではしていなかった、×をつけています。

最後 7 ページ、介護予防ケアマネジメント・介護予防支援です。自立に向けた

プランニングで、薄いところがありました。プラン委託のケース等のケア担当者会議には、おおむね私ども出るようにして、直営、委託ケースともに社会資源の位置づけや、生活の中でのインフォーマルサービスの考え方等を担当のケアマネジャーさんだけでなく、家族さんや本人さんにも考える機会を持っていただく視点を持っていただいたり、自立に向けたプランはどういうことかを担当者会議に繋がるようにしました。担当者会議の時に、サービスの選定について中立公正を、折を見て伝えるようにしました。

介護予防の支援は、29年度の終わりにアンケートやチェックリストの結果をもとに、各会場の環境を見て教室の計画をしています。新しく開催するところや、新しい参加者を求めるのに、教室の参加者やサポーターさんに誘っていただいたり、公民館やスーパーにチラシやポスターを貼っていただいたりして、新しい参加者さんの獲得を図ってきました。教室の終了後も自主グループ化につながるように頑張っており、そのおかげで新しい所も二か所でき、また今年度に繋がって4つの新規の自主グループの立ち上げをしました。またサポーターさん達の活躍の場として包括の介護予防教室のお手伝いを誘い、市が開催している教室も案内等して、活躍の場を選べるように支援をしています。

会長

はい、ありがとうございました。では続きまして第三包括をお願いします。

第三地域包括支援センター

1番から25番まで、地域包括支援センターの業務推進体制は、市の定める運営方針に準じた事業計画に沿って、三職種が業務を行っています。また定期ミーティングを行い、情報共有し、職員の業務内容や相談内容を確認しあいました。また包括マニュアルは、業務を効率的に行うための手引書となっています。

21番が×ですが、個人情報の持ち出し時の管理簿の記載は、2018年度は行っていないのですが、2019年度から実施しています。

26番から55番。総合相談業務は、相談内容を包括内で共有を図り、必要に応じて、ケース会議や地域ケア会議を開催しました。また2か月に1回診療所の医師、振興局の所長などが集まる会議等で、個別ケースとして議題に挙げ、対応策を考えました。

33番の実態把握は、訪問を行いチェックシートの活用によりスクリーニングの視点で調査を行い、何らかの要因が潜在化しているケースは、支援関係者との情報共有を行い支援でつなげました。

第三包括エリア全世帯対象に、買い物や通院などの移動手段に関するニーズ調査を行い、地域課題を数量化したデータを基に、地域の方々との検討会を2019年度は予定しています。

地域ケアネットワークの構築では、医師や専門職を交えて、地域課題の抽出、共有対策検討のためのケア会議を8回実施し、個別課題のケア会議を2回開催しました。

51番の認知症施策は、認知症の人や高齢者が安心して住み馴れた地域で暮らし続けるための、認知症キッズサポーター養成講座は、小学校全校にて開催でき、

69名のキッズサポーターが誕生しました。また、安心見守り隊養成講座を5回開催し、併せて見守り隊のフォローアップも4回開催しました。

56番から64番。権利擁護業務は、成年後見制度や日常生活自立支援事業の啓発講座を7回開催し、相談から制度利用につなげる件数は少ないですが、申し立てが円滑にいくように関係機関と協力し、迅速な対応を行っています。虐待防止はストレスケアのために地域で啓発講座を7回開催して、地域で高齢者虐待を未然に防ぐための地域づくりを行っています。虐待ケースは、振興局や関係者との連携を行い対応しており、記録を残し、行政への報告も行っています。

65番から79番。包括的・継続的ケアマネジメントは、医療と介護の連携という視点で、医療機関との連携づくりを引き続き行いました。また地域の医師と介護支援専門員との勉強会を月に2回開催し、個別ケースの相談がしやすいような体制づくりを行いました。介護支援専門員の資質向上のため、事例検討会を9回開催し、事例提供者への後押しとなるように検討会を行っています。2019年度には、事例検討以外に多様な知識を補うために専門職のケース集を考えています。

80番から95番。介護予防ケアマネジメントは、委託の居宅介護支援事業所には、事業所の管理を記録に残しています。また、介護予防プランの確認を行い、委託先の担当者会議に同席し、自立支援やサービスの必要性を意見しています。

介護予防の支援は、3回シリーズの介護予防教室や自主グループ支援のためにできるだけ時間を使って地域に出向きました。3回シリーズ、年間シリーズで実施するチェックシートを基に、機能低下がみられる方には、アプローチするようにしています。現在活動中の自主グループに対しては、自主的な運営が行えるように、一人一人が役割を持ち、存在意識を実感できるような支援を行い、ほとんどのグループが自主的に運営しています。包括がどの地域に介入するべきかは、慎重に検討を行い、地域性、人材、今後の方向性などに着目し選定を行っています。今後も様々な事業の案内や周知を行い、地域の方々の選択肢を広げることで、参加しやすい体制づくりをしていきます。

会長

はい、ありがとうございました。では第四包括お願いします。

第四地域包括支援センター

1 ページ目で、データに基づいて業務をすることは、担当圏域の高齢化率や認定率を参考にさせていただき、一般介護予防事業の取り組みを行っています。

総合相談で、毎朝ミーティング等々において困難事例等々を把握した場合に、まず三職種で情報共有しながら、対応方法について考えています。

2 ページ。第四地域包括支援センターの窓口、開設時間は、土曜日、祝日をしています。意外と相談も入って来ることがあります。個人情報、今年度管理簿を作り、持ち出しについて、職員間で徹底するようにしています。

3 ページ、人的資源。公民館ごとに、いきいきサポーター、見守り隊、民生委員さん、自治会の若手の方などをリスト化して、地域に出向く際に参考にしています。地区診断を行っていく上で目標を各職員が共有しながら、地域に入るようにしています。

生活支援は、コーディネーターさんを中心にしながら、地域の課題が明確になれば、関係機関と情報共有しながら、新たな社会資源の開発や既存のものをより強化できるような関わりを持たせていただいています。

4 ページの地域ケア会議は、30 年度、地域高齢者に関わる関係機関と協働しながら、利用者さんの強みに焦点を当て、協議させていただきました。日頃から顔の見える関係づくりをできるような地域ケア会議の場を持って構築等々を図っています。

キッズサポーターも、圏域内の小学校で開催させていただいています。

5 ページです。権利擁護は、3 名いる社会福祉士を中心に啓発等々を行いながら、普段こういった事柄が地域の中でありますという事例を交えて、住民の方に身近な問題であることをわかっていただけるような取り組み、また虐待についても介護疲れから虐待に至るケースもたくさんありますので、そのストレスがどこからきているのかを把握しながら対応しています。

6 ページ、圏域内のケアマネジャーさんと事例検討委員会を 30 年度立ち上げて、介護支援専門員が抱えている課題、または地域の課題をあげながらそれに対して事例検討会等々を開催しています。

7 ページ。介護予防は、できる限り小さな単位で、介護予防の取り組みができるように自治会さん、老人会さんなどと連携しながら、地域の高齢化率などを参考にして働きかけをしています。また一般介護予防事業は、地域の中で介護予防を位置づけるように、自主グループの立ち上げも視野に入れながら関わりを持たせていただいています。

会長

ありがとうございます。それでは、第五包括お願いします。

第五地域包括支援センター

地域包括支援センターの業務推進体制は、運営方針の内容に沿って事業計画を策定し、運営協議会で計画、報告の承認を受けています。松阪市から各公民館区の人口動態、高齢化率、認定率などの情報をいただき、各地域で講座や教室で紹介しています。

No.7 の三職種の配置は、保健師が不在であったため×となっていますが、今年の 6 月から配置となり、解消しました。

No.9、定期的なミーティングで情報共有して、各職種が複数で同行訪問できる体制をつくり、主担当が不在でも包括職員が対応できるようにしています。月 1 回自己評価により業務の見直しをしています。

協議書の提出に関しては、2 か月前のスケジュール表を目安に作っています。

市県から研修案内が常にあり、本人が希望する研修や管理者が職員に必要な専門知識を習得させるための研修を選択して受講させています。

個人情報の持ち出し時は、管理簿に記載し、管理者が確認しています。また個人情報を扱う困難事例や地域ケア会議等では、事前に利用者に理解を得ています。

総合相談支援業務は、随時ミーティングで困難事例の情報提供を図り多職種複数で対応しています。75 歳お達者訪問リストに基づき、自宅訪問し、対象者の状

況を把握し、必要に応じて介護予防教室への案内や自主グループへの紹介、介護保険の説明や申請代行をしています。

タッチパネルと出張介護相談会を花岡地区以外の6地域で実施し、地域の高齢者の相談を受けたり、地域の生活状況を把握し、必要な情報等を伝える機会や講座を計画しています。会議や相談等を通じて、関係機関と情報交換をし、地域の社会資源を紹介しています。

No.39は、サービス事業者からの報告や本人のモニタリングを通して確認しています。

地域ケア会議は、個別ケース7回、地域課題として認知症カフェの取り組みを3回協議しました。

認知症サポーター養成講座を9回、キッズサポーター講座を2回開催しました。小学生を対象とした講座でしたが、感想はしっかりした内容で書かれており、思った以上に理解していただきました。

認知症カフェは毎月開催し、毎回グループホームの職員と包括の職員を配置し、相談や介護者への情報提供や交流ができる場を作っています。

権利擁護業務は、成年後見制度の講座を5回開催し、包括独自のエンディングノートを作成し活用しました。介護施設において虐待防止の啓発講座を6回開催し、スピーチロックに関心を持たれ、今後どのように声かけをしていけばよいのかと感想を持たれました。

包括的・継続的ケアマネジメントは、医師の往診時に同行訪問して連携を深め、医療連携シートを活用して医療機関と連携しています。

介護支援専門員のスキルアップ研修は、年に4回開催し、アンケートから介護支援専門員が抱える課題や事例を通して、タイムリーな情報を提供しています。

介護予防ケアマネジメント・介護予防支援は、できる限り委託先の開催するサービス担当者会議に出席し、助言をし、プラン作成にあたり、フォーマル、インフォーマルのサービスや地域で開催する予防教室等の紹介などもしています。

自治会や老人会と連携して、地域住民が参加しやすい、集会所や公会堂を借りて顔なじみ同士が誘い合って参加できるように工夫しました。

介護予防いきいきサポーターフォローアップ研修会には、他の地区のサポーターを講師に迎え、受講したサポーターが活動内容を聞くことで刺激を受け、意識づけができました。また、その場で活動状況を把握できました。

3回シリーズ終了後は、地域の自主グループの情報を伝え、参加を促し、いつでも介護予防が気軽に取り組めるように働きかけていきます。

会長

それぞれ端的にお話しいただきまして、ありがとうございました。非常に多岐にわたる活動であるということがよくわかりました。

ただいまのご発表に対しまして、ご質問を受けたいと思います。並行して今回の自己点検で、×や△になった部分等がありましたから、その辺も含めて、今後その辺をどのようにしていけばいいのか、アドバイス等ございましたら併せてご協議いただきたいと思います。

いろんな形で、これから行政がどのようにサポートできるかという視点も含めて、上手いかなかった点やアドバイスという形で、今後の取り組みのご意見をいただけたらと思います。

委員

医療と介護が常に連携していかないといけない。当たり前のことですが、65項目以下の包括的・継続的ケアマネジメント支援事業の項目にあります。

多職種の協働連携により、個々の高齢者の状況に応じた包括的かつ継続的支援をできる地域の体制づくり、云々とありますが、常日頃患者を診察していて、いろんな介護サービスを受ける方が多いですが、時々急に通院を中断、治療を中断する方をよく見かけます。突然来られるのは、いわゆる介護認定の審査会に意見書を提出する必要がある。その時だけ来る。1年前から受診していない、週何回かデイサービスなどに行っているけど、治療を中断していることに全く関心を持たれていない方は時々見かけます。

認知症がその間悪化したりして、せっかく介護サービスを受けているにもかかわらず、医療が全く中断しているケースをしばしば見かけます。

これを包括的・継続的ケアマネジメントで、医療との連携、どこの包括支援センターも○ですよ、評価としてはいいとなっていますが、現実そんな事例が散見されることは、チェックにすごく欠陥があるのではないかと、前から僕思っていて、医療と介護の連携が、現場に応じてなされていない事例は、たくさん見かけるのを、どのように防いだらいいのか、考えるんですが。かかりつけ医としてはそんなところが気になります。

医師会の委員にしましても、介護に医師が参加していないこともあると思います。カナミックの登録者数が医師の数も少ないので、開業医、かかりつけ医は、介護に関して無関心なところももしかしたらあって、それは我々もう少し周知していないといけないと思います。そういった連携が実際になされていないのをどのようにチェックしたらいいかと思いましたので発言させていただきました。

会長

はい、ありがとうございました。

それでは、その医療・介護の連携の中の一つの場面、受診が出来ているか出来ていないか、少し出来ていない場合があるということ、それに関連して追加したご意見やご発言ございませんでしょうか。

薬剤師さんの場面で一緒に診療に関わっておられて、今日は薬が出てないのに、突然何か月か出るとか、例えば患者さんご本人がお医者さんには言えないけど、薬剤師さんには言ってるとかはございますか。

委員

言われるように医療の中断は、しばしばみられるところで、それは薬の服薬にも関することですが、薬も中断するわけで、介護の方と連携というのは、診察を受けに行くのとは、ちょっと薄いかもしれませんが、これは薬剤師の関わり方、努力次第というのがありますが、中断はあるかと思います。

こういうところに医療との連携という実情的な連携をどのように評価してい

くかというのは、非常に難しいと思います。評価項目の中に入れ込むのには、どうしていったらいいのかと私も思っています。

事例検討会に参加しているか、いないかの評価はあるけれど、実情の医療と介護は、実際どう連携していくのか評価するのは、ないのかなと思います。

会長

多分、ケアマネさんが患者さんを担当される中で、お気づきになられるような場面も多々あると思いますし、治療の継続ができていくかという視点も大事だと思いますので、今後そのケアマネジャー活動の中にこのことも導入していただいてもいいのかなと思います。

その他特にご質問はございませんでしょうか。

よろしいですか。またございましたら、後でもお受けしたいと思いますが、もう一点協議事項がございますので、そちらに進ませていただきたいと思います。

介護予防の取り組み紹介について、(2)の方ですが、これも各包括の方から資料に従い、事務局の方からご説明がございましたらお願いしたいと思います。

事務局

介護予防の取り組み紹介について、お手元の資料のカラー印刷の介護予防のための集いの場、そこに4種類の資料を入れてあります。2つ目が各包括さんからご紹介いただく集いの場や教室の内容がわかるチラシ、3番目に大きなA3の紙があります。令和元年9月末現在の介護予防のための地域の集いの場、4番目に31年4月1日現在の地域の高齢化や独居世帯の状況が分かるよう、統計資料をつけてあります。特に3枚目のA3のカラーの地域の集いの場について、2年ほど前にもこの運協で、このマップを紹介しましたが、平成28年度から総合事業を始める中で、次の4つの視点で一般的な介護予防の取り組みを進めています。

それは高齢者の集いの場への参加者を増やすこと、集いの場を作ること、3番目がそこを担っていく地域のリーダーを養成や、継続支援をすること、4つ目にはこの集いの場をきっかけにして、その開催日以外の日頃の生活支援もしていくという4つの視点で、一般介護予防の支援をしています。その取り組みを包括支援センターの方で積極的にして頂いて、自主グループや、集いの場が2年ほど前よりもたくさん増えてきていることを、お感じになって頂けるかと思います。

これからの目標として、地域の身近な場所でこういう場所をもっとたくさん作っていききたいということ、男性の方で、独居の方の閉じこもりあるいは引きこもりの方も結構多いので、その支援の場にもしていききたいと考えています。全国的な統計で、男性の独居の人は、2週間に1回も話をしない人が、女性に比べて3倍ほどいるというデータも出ています。今日の発表の中でも男性のための教室や集いの場への参加に取り組んでいる事例も発表していただきます。

会長

はいありがとうございます。介護予防という切り口で、それも集いの場を介した活動ということで、その辺の各地区の現状をご報告頂けるかと思いますので、これも第一から第五まで順番にご発言を頂きたいと思います。だいたい5分くらいを目途に各包括の方から活動をご紹介いただきたいと思います。

第一地域包括支援センター

第一包括からは、通り日野町の自主グループで「ひの街プラチナサロン」への支援の取り組みについてご紹介させていただきます。初回相談から立ち上げのために地域の方、サポーターさんたちと時間をかけて丁寧に取り組んで、自主グループとして立ち上げに至ったケースです。

平成29年の5月に、通り日野町信用組合事務所跡地を地域の方に向けて活用してほしいと自治会長さん等から市役所さんの方に申し出があり、相談をさせて頂きました。

通り日野町は、集会所が無くて、地域の高齢者が集まって、楽しく過ごせる場を作りたいという強い思いをお持ちでした。思いはあるのですが、場所は提供するので、包括支援センターの方でうまく活用してほしいというスタンスでご相談がありました。

地域の集いの場ですので、地域の方が中心となって作ってほしいことを、まず理解していただくように努めて相談をしていました。宅老所やサロンや、自主グループなどの活動を紹介はしましたが、どのような活動を目指していったらいいかが、なかなか絞り切れないでいました。他の地区での活動の見学なども提案をさせて頂きましたが、自治会長さん自身も商店街の仕事があり、なかなか時間をとっていただけず実現しませんでした。

そこで、高齢者支援課から年間シリーズの介護予防教室の話が出ましたので、それを活用し、包括が主となって一旦開催をして、足がかりを作ること、そのあと続けて自主グループに繋げていけないか提案をさせて頂いて、ご了解のもと進めていくことになりました。

介護予防教室に1年を通じて同じ介護予防サポーターさん3名か4名の方にお手伝いをしていただいたことで、地域の方、参加者さんと顔見知りの関係も作っていただく事ができました。

教室の開催にあたっては、自治会長さんの方で案内を作って、回覧をしていただいて、包括支援センターの方も介護予防の担当の看護師と一緒に、通り日野町のお宅を1軒1軒回って参加者を募りました。ただ、通り日野町は商店街ですので、高齢になられてもお店番をされていたり、なかなか参加はできないと断られる方が多かったです。ただその反面、商売をやめられた、行くところがない、という方も中にはおられました。実際に自分たちも地域の方と一緒に動くことで、その地域の様子が見ることができたので良かったと思います。

結果的には、それでも人が集まらず、開催も危ぶまれましたので、通り日野町の地区を超えて募集をして、開催に至っています。

年間シリーズの介護予防教室に自治会長さんがなかなか教室への参加をされず、本当に自主グループに移行していけるのかという不安な状況がありました。それで昨年11月から自主グループ運営に向けて相談を重ね、参加者さんに向けても、引き続きこの場で集いの場へ参加しましょうと声掛けもさせて頂きました。

サポーターさんには、介護予防の内容を、今後も担当していただけるよう参加者からお願いしてもらいました。年間シリーズの最後の日には、自主グループの

内容を、参加者さん全員で話し合いました。文化的な内容もしていきたいというご希望もあり、お元気応援室等へ包括を通じて依頼し、お手紙教室なども開催しています。

自主グループの開設補助の申請について、高齢者支援課やお元気応援室と、サポーターさんや地域の方とで話し合いの場を作らせて頂き、そのあとの手続きについては、包括に関わる必要もなく、出前講座の申し込みや、開設補助の手続きは地域の自治会長さんのほうで進めていただきました。現在代表のお二人と参加者さん 12 名、サポーター 3 名の方とで運営していただいています。それぞれの役割分担ができており、それについては開催に至るまでに関係者で何度も何度も相談を重ねて開催できたという事が良かったと思います。

会長

はい、ありがとうございます。町内の自主グループがきっかけで普段の力に繋がっていったという話。第二包括もよろしくお願いします。

第二地域包括支援センター

第二地域包括支援センターの報告は、介護予防教室の年間シリーズ、男性限定の教室から自主グループ立ち上げまでの取り組みを報告します。

これまで何年も介護予防教室を開催させて頂いている中で、やはり課題となってきたのは、男性参加者の獲得でした。教室の参加者はほぼ女性で、男性参加者は本当に少なく、回数を重ねるごとに男性は参加されなくなることがありました。地域の集いの場である宅老所やサロンも女性ばかりの所が多いのが現状です。

第二包括の嬉野地域は、包括センターのそばに嬉野のグラウンドがありますが、一日おきくらいにグラウンドゴルフに多くの人が集まっています。その参加者を見ると、男性の方が多く集まっているのがよくわかります。また少し前ですが、地区の自治会長さんが集まる場で、介護予防の取り組みをお伝えした時に、「介護予防なあ、まだまだ先の話やな」と言われたのですが、男性は女性に比べて介護予防への関心が低いなど、すごく実感しました。

そうしたことを踏まえて、男性にも介護予防に関心を持って貰いたい思いから、男性が参加しやすい教室を目指して昨年度、介護予防教室の年間シリーズとして男性限定の運動教室の方を開催しました。月 1 回の開催で、年間計 10 回、5 回は健康運動指導士さんが講師、残りは包括職員が担当しました。教室募集は、第二包括のエリア全体の既存の自主グループや、公民館開催のサークルやカフェなどに周知をしました。

毎回平均して 12～3 人の参加がありました。初回はやはり初めて会う者同士ですし、男性同士ということで、みなさんとても表情が硬くて黙々と運動するだけという姿も見受けられましたが、回を重ねるごとに会話が增え、自主グループの代表をしている方などは「うちのサークルに来たらどお？」と誘い合う姿も見受けられるようになりました。

対象者が男性ばかりという事で、通常の介護予防教室の内容に加えて、レクリエーション感覚で取り組めるゲームや、写真にもありますようにチーム対抗でボール送り等、少し競う要素も入れながら楽しい教室運営も工夫をしました。

その他に、宿題カレンダーというものをお渡しして、各自が毎日の運動を記録し、それを毎回提出してもらい、包括職員がコメントを書いて励ましてきました。

それに関しては参加者の方からも「よくできましたね」というコメントが欲しくて頑張ったんや」とか、「一年間の振り返りになるので良かった。」とか「記録をすることで意識して運動に取り組めた。」等の感想を聞く事ができました。参加者の中には、これまで全く運動習慣のなかった方もみえましたが、今回の10回シリーズに参加したことで、自然に運動習慣が身について、もっと回数が増えたらいいなという意見も聞く事ができました。

教室開催後に参加者から聞かれた意見としては「女性と一緒の教室より男性だけの教室の方が参加しやすかった。いつもは女性の参加者に追いやられているような感覚があるが、男性ばかりでそのようなことを考えなくて良かったので、最後まですごく楽しめて参加できた。」また、「教室に来て皆の顔が見れるのが楽しみにになった。」という意見もありました。また、教室に参加して新しい仲間ができて、その人が行っている他の自主グループに参加する事になったり「自然と運動習慣が増えて体力がついてきた気がする。」などという感想もいただいて、参加者の方それぞれが、この10回を通して意欲的に取り組んでいただくことができたと感じています。

この教室の後半の方では、教室終了後、自主グループ化に向けて参加者の意向を把握し、どのような形が継続しやすいのかを検討しました。参加者の声は、自分達だけだと続けられるか不安なので、包括にも手伝ってもらいたいということで、包括もお手伝いさせてもらおう形としました。また自分の出来ることはさせてもらおうよ、言っておく方があり、現在はその方が中心でほぼ自主化された状態で取り組んでいます。友達を誘っていただいて、新たな参加者も増えている状況です。

男性限定の教室開催と自主グループ化の取り組みで感じたことは、男性は女性と同じ教室だと女性のパワーに負けてしまうこともあるということ、男性は目的が明確でないと、なかなか参加に結びつきにくいということでした。また良い面として運営に関して、例えば会場の準備、受付、片付けなどは、こちらが提案をする前に一人一人が、どんどんと意見を出してくれたりしました。「今回は〇〇さんが準備してくれたね」「今度は自分が早く来てやらないとあかんね」、というように一人一人の役割意識の高さというのを感じました。

この教室開催がきっかけで、介護予防いきいきサポーター養成講座や他の自主グループも男性参加者が増えています。この教室開催によって、男性がどのように感じているのかを少し理解できた気がしますし、今後もグループの活動を継続支援し、地域の男性が介護予防に関心を持って頂ける取り組みを考えていきたいと思っています。

会長

はい、ありがとうございました。では第三包括の方からお願いします。

第三地域包括支援センター

第三地域包括支援センターからは、飯南町の粥見の仲組地区の男性の集いの場

を紹介させていただきます。

こちらの集いの始まりは、同じ地域に仲組サロンがあり、女性の方ばかり 12 名ほどの集まりで、そちらに包括が訪問したところ「女性ばかりで男性の参加が少ない」、女性たちが「私達に何かあったら、男性たちはどうやって生きていくの？」との声があり、「包括さん、男性が何を思っているのかアンケートを取ってよ。何とかしてよ」と声が挙がりました。

このことをきっかけに、仲組サロンの代表者と包括支援センター、社会福祉協議会の地域担当、当時の区長さんと協力をして平成 29 年 9 月にアンケートを実施しました。仲組の世帯が 38 世帯中、60 歳以上の男性がいる世帯 20 世帯にアンケートを配布しました。回収は区長様の協力もあり、回収率が 100%となり、アンケートの集計結果によると、男性は意外と色々な特技を持っている。お茶作りが得意、野菜作り、庭木の手入れが得意など、様々な形で地域と関わっていることがわかりました。また全体を通して人との繋がりがすごく重要と感じていることがくみ取れました。

包括として、このアンケートを地域に返していくイベントを展開していこうと考え、「野上り」という、田植えが終わった後にお疲れさま会という風習があることで、「野上り」のイベントの時、アンケート結果を報告するために男性に集っていただき、女性が後ろで見守るといった形で話し合いを行いました。

この話し合いでも、やはり人と人との繋がりがすごく重要ということが出て、やはりサロンの様に定期的に集まるのは、男性は苦手である、そこは負担になるという事で、したいことを気軽にやりたい、何かサロンのように決まったところを考えるのではなくて、やりたいこと、興味のあること、そこに人が集まるようにしたいという意見が出ました。どんな事であれば男性は興味を持って集まるの？と聞いて、「グラウンドゴルフ」と意見を出していただきました。

色々イベントを展開する・企画していくとき、自分たちでは企画力・発想力にはすごく乏しい所がありますが、地域の発想にゆだねますと、こちらが思ってもみなかったようなアイデアを色々考えて展開をしていくこともあり、そういった地域力を活かしていくのが、包括の専門性として必要なのかと感じました。

また男性の方は、役割がないのに集まるのはすごく苦手ですが、その中でリーダー役、専門のゴルフを教える役、あの人来てないから声掛けに行くわと言って動いてくださる方などあり、地域の中の見守りにも繋がっていますので、包括としては本人達、地域の方々の得意分野を見極めて、役割を見つけ、生きがいを感じてもらうことが、本来の意味での介護予防につながると考えております。

ちなみに次は、女性の要望で、男性による料理づくりです。男性の居場所づくり事業ですが、男性だけだとやはり華がないので、女性の方を招待して一緒にしていることになっています。

会長

ありがとうございます。それでは、第四包括のほうよろしくお願いします。

第四地域包括支援センター

第四地域包括支援センターの報告は、高須町の方で 5 月から行われております、

元気ゆずりは教室です。

この取り組みは、昨年地域住民の方より、昔は地区で集まる機会がありましたが、最近は集まる機会が減ってきて、というということから、新たに住民同士の繋がりづくりをしていきたい、というお話があり、ただ自分のやりたい気持ちだけで、他の住民の方を巻き込んでしまっていていいのかな、という遠慮や、またどうやって進めて行ったらいいか言い出せなくて悩んでいる、といった内容を包括支援センターに相談されたことがきっかけでした。

その方の相談の後、包括支援センターから高須町自治会へ働きかけを行い、新たな関係作りも兼ねて関わりを開始しました。その中で昨年度は、口腔の3回シリーズの教室を行い、好評でしたので、参加者から、やっぱりみんなで集まれるのはいいなあと感想がございました。

当初地域の女性を中心となって、新たな集まりが立ち上がりかけたのですが、内容をどのように進めていけばいいか、運営の不安があるなどの課題がありました。そこで今年度は自治会と包括支援センターが、共催という形で自主化に向けて年間シリーズを計画し、自治会に負担をかけすぎないようにして、自主的に協力してくれる方を中心に声掛けを行っていきました。

開催については、参加していただいている男性が、椅子のセッティングなど事前準備を行っていただいたり、回数を重ねるたびに男性の参加者さんたちが、積極的にいろんな役割を担ってもらえるようになってきています。

第四地域包括支援センター管内では、たくさんの自主グループが、日頃より活動しています。地域の方が運営して頂いている中で、一人の人に負担がかかりすぎないように、グループのリーダーの思いや気持ちを聞かせていただきながら、開催時に役立てて頂ける様な、様々な体操等のプログラムの提供などを行っています。またグループに参加されている、なるべく多くの方々と会話を通じて、お一人お一人の参加に対する思い等を聞かせて頂きながら関係を作っていくところも大切だと考えております。

今後も地域の方が主役となってグループを継続していけるようにご支援してまいりたいと思っています。

会長

ありがとうございます。では第五包括のほうよろしくをお願いします。

第五地域包括支援センター

第五包括として一般介護予防の3回シリーズ栄養編で、「ゴーゴーごはん」という初めて男性限定の教室を開催したので紹介させていただきます。

「簡単に美味しく楽しく男の胃袋に響くガツンとした男の料理」というテーマで、普段台所に立たない方にも気軽に参加して頂けるような教室作りに配慮しました。例えば、食材の数や調理工程、調理器具を極力少なくして簡単にしました。包丁を使わずにただ食材をちぎるだけや、キッチンばさみを用意して普段包丁を握ったことのない方も、キッチンばさみで参加出来る、調理に参加出来るなど。またボウルやバットなどの調理器具は一切使わずに、ビニール袋に入れて混ぜ混ぜ、こねこねできるようにし、そういう洗い物を少なくするような提案・工夫を

して行いました。さらに男性好みの味付け、焼き肉のたれや、キムチを味付けにして、味付けも簡単にできるように工夫させてもらいました。

ただ腕に自信のある参加者さんが多くて、包丁を用意しなくても包丁とまな板を自分で準備して、しっかりと食材を切っていただいて、調理に取り組んでいただけてました。あとは三角巾というか手ぬぐいを巻いて、とっても格好良く調理をしていました。

苦労したところは、管理栄養士の講師の先生と、テーマで「簡単に美味しく楽しく」としまして、男の人好みの濃い味付けでとお願いしてあったんですが、講師の先生が提案されたメニューが、鶏むね肉のハンバーグや薄味の吸い物だったので、メニューの調整に苦労しました。

みなさんの感想としては「家で妻に作って、妻の胃袋をつかみたい」とか「妻に感謝したい」とか「調理ってこんなに頭を使うんだな」とおっしゃって見えしました。調理は栄養改善にもつながりますが、認知症予防になるという言葉聞いて、介護予防をわかっていただけたことがとても嬉しく思いました。

参加者さんたちは、地域で老人会の役員をされたり、自主的なグループの担い手さんという方が多く、このような教室にご参加いただいて、さらにご自分の地域活動の取り組みに入りたいとおっしゃって見えしましたので、この大河内地区の介護予防に携われたと思いました。

会長

はい、ありがとうございます。それぞれ素敵な発表をありがとうございました。色んな工夫をしながら、なるべく地域の皆様の負担にならないように、自治会が絡んだり、あるいは男性だけから始まったり、特色ある活動をされているのがよく分かりました。地域包括のいろんな方法で自発的にやりたいという自主グループに育っていったらご報告だったと思います。

この件につきまして皆様からのご質問・ご意見がございましたらお受けしたいと思えます。お願いします。いかがでしょうか。

委員

僕らの地区でもやっぱり女性が多くて男性がすごく少ないんです。だから男性中心ということに関しては、すごく工夫しなければいけないことですが、この催しをやる場合、対象者が例えば 100 としたら、だいたいどのくらい出席されたらよしとするのでしょうか。

会長

いかがですか、そのへん。それぞれご意見あると思いますけど。だいたい印象として、まず第一包括の方から。

第一地域包括支援センター

今日ご紹介しました、通り日野町の年間シリーズ教室は、15 名以上の人数が集まらなないと教室開催できなかったんですが、最初は 10 名以下だった。地域によっては 10 人集まるかどうかというところ。

会長

人数的なことはなかなか難しいかもしれませんが、参加して頂くことに

関して人数等で、どれぐらいみんなに広まっているかという視点で。

第二地域包括支援センター

普段の教室を開催している中で、やはり女性ばかりで、例えば全体で 15 人くらいの教室だと男性が 2 人とかが多いのですが、これから男性も出やすい環境を私たちが作りながらやっていく中では、半々くらいの割合で、男性 5 割、女性 5 割ぐらいの教室運営ができれば一番いいのかなと思っています。

会長

ありがとうございます。第三包括の印象はどうですか。

第三地域包括支援センター

第三管内は、元々人数がすごく少ない地域ですので、各地域 10 名集まれば、というところですが、その中で、男性の方が 3 名みえたら、すごく充分かなという捉え方はあるんですが、今第二包括の方が言っていたように半々くらい集まっていたら理想かなと考えております。

会長

はい、では次、第四包括の方、ご意見ございませんか。

第四地域包括支援センター

第四包括としましては、人数で何人くらい集まれば、というお答えするのは、非常に難しいと思いますが、その集まってくっかけて、自治会さんと共催させて頂いたときに、自治会長さんの呼びかけという形で集まってくっかけているところの、きっかけとして男性が、すごく多く出てきていただいている。それもひとつのきっかけかなとは思っています。

ただやっぱりその中で、今後継続して出てきていただけるように、内容をしっかりと声を聞きながら考えていくところですが、なかなか男性と一言言っても、色んなニーズや思いがあると思いますので、その辺はじっくりと聞かせて頂きながら、声掛けという事だけではなくて、継続的にまた参加して頂けるように、また工夫をしていかないといけないと思っている次第です。

会長

はい、ありがとうございます。第五包括の内情をどうぞ。

第五地域包括支援センター

今回、男の料理教室をしてみて思ったのが、実際、確かに運動教室や認知症予防教室をすると、男性の方の参加割合は、2 割までだったりですが、男性は地域活動において、老人会の役員をしていたり、自治会長さんされていたり、そういった方々は、1 回催しを開催するのに、何度も話し合いと会合を重ねて、労力を使われて、そういったことも自然な介護予防と、それを言うのは失礼かもしれないですけど、そういった活動をされていて、すごく地域でも活躍されているんだなというのを感じました。

私たちが、教室で関わって自主グループになったところは、10 人や 15 人という人数が集まっており、井戸端会議のように、自分たちで、月に数回寄っているグループさんたちは、4～5 人でも本当にしっかりと活動されているので、人数というのはグループ活動をするのに関係ないんだなと感じております。

会長

はい、ありがとうございます。何かご質問ありますでしょうか。

委員

全体の感想で。

本当にこんな資料を作っていただいてご苦労さんです。本当にこの手間が、この労力が、どうなんかなと少しは疑問に思いながら感じているところです。ひとつ評価の面は一定の基準を多少作られて、5つの評価をずっと自分なりにまとめてやってみたらいろんな差があります。一定の基準を作られてやって、どこが自分の地域包括が課題になっているのか、どこが良いとこなのかがわかるような形の方がいいかなとも、自分はそう思いながら見ていました。

もうひとつは、これだけの作る労力が大変なことで、毎回毎回本当にご苦労様です。ありがとうございます。

会長

はい、ありがとうございました。

いろんな取り組みいただきました。櫃本先生のお話なんかも思い出しておりますと、元気な方をどうこの地域で活かしていくかという、いろんな取り組みの中で自主グループに繋がるきっかけ、元気な方を元気にするようなきっかけを載せていただいたように思います。もっともっと皆様方お一人お一人にご意見を伺うべきだと思いますが、ちょっと時間延びております。非常に残念で申し訳ございませんが、まとめて副会長さん、こう思うところがきつとおありかなと思いますので、一言お願いできますでしょうか。

副会長

膨大な資料、ご苦労さんでございました。さっと見せていただきまして、あまりにも膨大な資料だったので、私はちょっと地域診断とか、重点業務とか、そういったことがうまく出来ていれば、あとの膨大な各論は、かなり解決できるのかなと思ったので、そういう観点から見せていただきました。

○などいろいろ付いておりますけれど、地域を診断することについて、皆さん苦労してみえるんだなという、私は印象受けました。

その中で、各地区の介護予防の集いの場を見せていただき、非常に楽しく面白く聞かせて頂きました。こういうことが楽しく面白く感じるという事自体が、参加につながるのかなと思いました。

男性の特性であるとか、ある種の、第三包括でもいろいろなニーズを探り出してみえるところが、実は人文科学的な地域診断になるのではないのかな、と私は思いました。

各論では、はつらつチェックシートを、たくさん多用してみえるようですけれども、こういった評価の中で、評価項目○×というのがありますが、こういった分野では、市の評価項目が、どの包括さんも記入がないので、実はこのところが、どのようにつけていけばいいのかなということが、多分地域診断については、地域がそれぞれ持っている習慣であるとか、特性であるとか、或いはムードであるとか、そういったことを受け止めることも、ひとつ大事ではないのかなという

ふうに感じた次第でございます。

東日本の震災の後、向こうの方では、独居老人になられた男性の方が沢山出まして、引きこもりもたくさん出まして、その中で男の介護教室、第五包括センターの様な取り組み、男の介護教室というのが、非常に集客力がよくて、同じように自炊できていく、自分で自立、自活できていく独居男性高齢者を支援していくという成果を上げているというのを聞いたことがあります。こういった形を今回私はいろんな診断についての、地域の診断にも重点を置いていただくとよろしいかというふうに思った次第でございます。

会長

どうも色々ありがとうございました。

非常に短い時間の間に、色んな協議を頂きまして本当にありがとうございました。もっともっとご意見伺いたいところですが、時間が来ておりますので残念ではございますが、本日の協議事項に関しましては閉じたいと思います。今後、またご意見等参考に取り組んでいただければと思います。

では次回の開催予定ですが、今年度第3回の運営協議会、令和2年の2月から3月を予定しております。また追ってご連絡させていただきたいと思います。

本当に5つの包括の皆さん、包括の役割ありがとうございました。また新たな取り組み、色んな波紋を広げて、良い波紋が広がっていく事を期待します。委員の皆様、今後ともご指導賜ります様、よろしくお願いいたしたいと思います。

それでは本日の運営協議会を締めさせていただきます。みなさんどうもありがとうございました。